

エ いい歯の日にあわせた学習

いろいろな機会でも噛むことの大切さについて学習したが実際の生活でどれだけ生かされているかを体感するために咀嚼力判定ガムを使い、口の中の状態を観察し関心をもつような学習の機会を設定した。



② 授業参観(学活)の活用

授業参観を利用して、歯について学習することで保護者へのアピールの手立てにもなるし、家庭での会話の話題提供の1つにもなるのではないかと考え年に1回実施した。



○ 21年「自らの歯で噛んで味わおう」

○ 22年「歯の知識を深めてみよう」

③ 帰りの会の活用

帰りの会の5分間を活用して、食と歯についてのワンポイント学習を設定した。



(2) 生徒会保健部の活動の充実

アンケートの結果を参考にしながら、生徒たち自身でみんなに呼びかけたいことや疑問に思うことを調べて発表することで、大きな意識付けになるのではないかと係の生徒と職員で話し合い内容を考えていった。



① 標語の募集, キャラクター募集(一年生のみ)

② 生徒集会時のクイズ大会(6月, 11月)

③ 文化祭での発表

○21年「むし歯の歴史, 大崎中のむし歯の実態」

○22年「みんなの歯磨き実態です。頑張って歯磨きをしよう！」

④ 歯磨き調べ, 歯磨きカレンダー配布

(3) 家庭・地域との連携の推進

歯と口の健康づくりは、家庭での実践力が大きく影響する。学校保健委員会の活性化を図り、保護者と一体となり、家庭へのよりよい働きかけをが必要と考え、保護者の意見を入れながら、取組を実施した。

① 学校保健委員会の充実

・話し合いの内容から家庭への働きかけの内容決定・・

ア 保護者の意識調査のためのアンケート実施

イ 食についての関心を高めるための試食会実施(年3回)

ウ PTA総会での取組みの報告

エ 家庭訪問時の担任より保護者へのむし歯治療のお知らせ配布と呼びかけ

オ PTA時の歯に関する子ども達の実態についての資料配布

カ 学校保健委員会便りの発行

キ 歯についての講演会実施



② 歯の学習会を終えた後、子ども達の感想・疑問をまとめた便りの発行

(4) その他の実践

- ① 美術科による歯のポスターの宿題
- ② 実態把握のためのアンケート実施(歯・生活習慣・むし歯の治療について)
- ② 家庭科での保育所訪問を利用した歯の広報活動
(紙芝居, 絵本, エプロンシアター等の作成)

3. 成果や課題等

(1) 成果

- ① 生徒のアンケートから(昨年と比較してよくなったと思うこと)

★歯について★

- ・歯磨きを丁寧にするようになった。
- ・歯の病気をよく知り, その病気にならないように未然に防ぐことができた。
- ・歯磨きの仕方が上手になった。 ・たまに歯のことを考えること。
- ・気をつけようとするがなかなかできない。 ・むし歯が減った。
- ・歯をもっと気遣わないといけないと思った。
- ・歯肉炎がなくなった。・しっかり一日三回三分を心がけられるようになった。
- ・一本一本丁寧に磨けるようになった。・・・これが一番多かった。
- ・むし歯にならないように心がけるようになった。

☆生活習慣☆

- ・時々抜かすけど朝ごはんを食べるようになった。
- ・スポーツ飲料をあまり飲まなくなった。 ・寝るのが早くなった。
- ・夜, しっかり家族と話す時間をつくった。・休日も早く起きれるようになった。
- ・朝歩いて学校に行くようになった。・一日一回はからだを動かすようになった。
- ・早く起きれるようになった。・・・これが一番多かった。
- ・おやつをあまり食べなくなった。 ・一日三食食べるようになった。
- ・好き嫌いが少なくなった。 ・朝一人で起きれるようになった。
- ・野菜がおいしくなった。 ・勉強時間が長くなった。

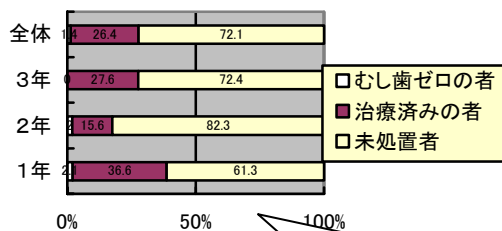
- ② 日常の関わりの中で職員が感じた生徒の変容(職員向けアンケートより)

- ・歯の健康や噛むことの大切さをかなり意識できるようになってきたと思います。
- ・「よく噛まないで!」など一声かけると「ああ。」(わかった, 思い出した)などの反応「1・2・3・・・」などと数えだします。でも, 暫くすると消えますが・・・自分から積極的に気をつけている子も増えたようです。「自ら継続して」という子はまだまだ少ないかもしれませんが, 歯・口に関する言葉を言ったときの反応は, 知識とつながっている感じを受けます。継続して声かけをしていくと良いのかなと思います。また, いずれ子ども自身も気づくことがあるだろうと思います。
- ・歯の健康に対する意識は高まったと思います。自分自身も勉強になりました。
- ・感想では「これから～したい」「これから気をつけて～する」と書いていますが, 実際はどうなのかわからない。意識の面では変わってきたと思う。
- ・歯磨きをする生徒(男子)が増えた。・残食, 特に魚が減らなかったのが残念。

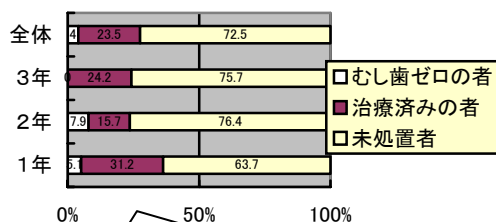
- ・生徒たちの給食時間の会話などで、学習した言葉などが聞かれることがありました。
- ・歯と健康に関する知識をよく理解している生徒が多いと感じます。

③ むし歯の治療に行く生徒の増加

<図1 21年度歯科検診の結果>



<図2 22年度 歯科検診の結果>



夏休みが終わっての治療状況は・・・
 1年・・・33.3% 2年・・・16.4%
 3年・・・19.4%
 2月末日現在・・・43.7%

夏休みが終わっての治療状況は・・・
 1年・・・62.7% 2年・・・54.4%
 3年・・・40.3% 全体・・・51.0%
 12月末日現在・・・54.0%

数値的には、大幅に増えたわけではないが、行かなければならないと生徒自身で言い出す状況も出てきているようである。

(2) 課題

- ① 身体への関心を高め、自主的に健康をつくっていかこうとする態度をつくるためにも、これからも、継続的な関わりが必要である。特に日常生活を通して、成果としても挙げられる，“繰り返しの学習”によって噛むことが意識付けられたり、生活習慣に変化が現れたりするなど、今後も持続し、定着させていくことが大切である。
- ② 継続した取組による変化が、習慣化されているように見えるが、わずか二年間の取組では、生涯にわたって自主的に健康生活を作っていく基盤となっているかどうかを判断するには至っていない。今後も継続して、生徒の変容を見ていきたい。
- ③ 学校保健委員会を設置して、保護者ととともに歯と口について考えるいい機会となった。歯と口の健康づくりは、家庭での実践力が大きく影響する。生徒の行動の変容が見られたとしても、個人や家庭間で差は大きい。学校保健委員会の活性化を図り、保護者と一体となり、家庭へのよりよい働きかけを考えていきたい。
- ④ 歯磨きの習慣化や正しい磨き方の習得は、個人差が大きい。歯科検診前後の継続した指導や保護者との連携を密にすることなどによって、自己管理能力を高めていきたい。
- ④ 2年続けて同じ講師での講演会実施によって、保護者や生徒の歯に対する関心を大きく高め、生活習慣改善への方向づけに結びつけるいい機会になった。継続して実施というのは難しいが、町の学校保健委員会等と連携を取りながら、ゲストティーチャーの招聘の機会をつくっていきたい。